

JADOWA

JAPAN ASSOCIATION OF DEEP OCEAN WATER APPLICATIONS

VOL. 9
NO. 2
December, 2005

NEWS



みえ尾鷲海洋深層水取水施設
(トピックス参照)

海洋深層水利用研究会ニュース、第9巻、第2号、2005年

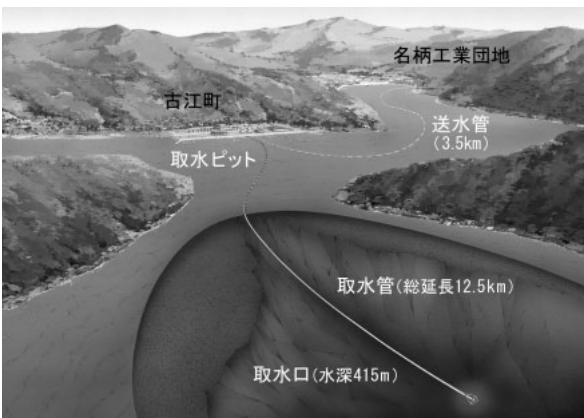
■ 目次			
トピックス	2		
みえ尾鷲海洋深層水取水・分水事業のスタート			
尾鷲市役所 新産業創造課 海洋深層水推進室	奥村 英仁		
ニュースレターの論文誌への併合について	3		
ニュースレターの論文誌への併合にあたって	編集委員長 藤田 大介		
歴代編集委員長のひとこと	初代編集委員長 1997~1999 高橋 正征		
	第2代編集委員長 2000~2003 深見 公雄		
歴代編集委員			
海洋深層水利用研究会ニュース総目次	4~10		
第1巻、第1号、1997年	第1巻、第2号、1997年	第2巻、第1号、1998年	第2巻、第2号、1998年
第3巻、第1号、1999年	第3巻、第2号、1999年	第4巻、第1号、2000年	第4巻、第2号、2000年
第5巻、第1号、2001年	第5巻、第2号、2001年	第6巻、第1号、2002年	第6巻、第2号、2002年
第7巻、第1号、2003年	第7巻、第2号、2003年	第8巻、第1号、2004年	第8巻、第2号、2004年
第9巻、第1号、2005年			
情報コーナー	11		
第9回海洋深層水利用研究会全国大会（海洋深層水2005室戸大会）			
研究発表企画委員長	清水 勝公		
お知らせ	12		
海洋深層水利用研究会2005年度第2回および第3回幹事会報告			
Staff Voice	12		

みえ尾鷲海洋深層水取水・分水事業のスタート

尾鷲市役所 新産業創造課 海洋深層水推進室 奥村英仁

平成18年4月1日に紀伊半島東側中央部の三重県尾鷲市に海洋深層水の取水と分水をする施設がオープンしました。尾鷲市は、東側が熊野灘に面し、他の三方は大台山系などの山に囲まれており、自然豊かなところです。海岸線はリアス式海岸で、南北の直線距離はわずか19kmですが、その延長は約100kmにも達し、尾鷲湾や賀田湾など多数の湾が入り組み、自然の良港を形成しています。江戸時代には、この良港を活かし、江戸へ、大阪へ回船が行き来しました。また、陸路は、熊野信仰の道として、伊勢参宮を終えた旅人や西国三十三カ所めぐりの巡礼たちが辿った東熊野街道沿い(この道は一昨年7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録された熊野古道です。)でした。近年は、林業、漁業とともに火力発電所関係の石油コンビナート工業で栄えましたが、それぞれの産業とも減衰傾向にあり、これらと相俟って地域の人口も減少の一途を辿っています。

このような中、これまでのまちづくりの考え方やあり方を変え、海や山に育まれた地域の資源を活かしたまちづくりを進めていくことにしており、これの中核となる資源の一つとして海洋深層水を位置づけています。



取水施設は、水産庁の補助事業を導入して整備し、市南部の賀田湾にある古江漁港から三木崎沖尾鷲海底谷水深415mの地点まで12.5kmの取水管を敷設し、日量2,885m³を取水するとともに、三重県尾鷲栽培漁業センター、ハバノリ陸上養殖施設、古江漁業協同組合魚市場、脱塩・分水施設及び海洋深層水活用型工業団地に送水します。

また、取水管の選定にあたっては、国内実績がある5種類の管を比較検討する中で、取水管敷設ルート上付近で沖合底引き網漁業や定置網漁業が操業されていること、賀田湾内を漁船や石材搬出船が往来することなどから、短期間で敷設工事を完了できる管が望ましいということになり、結果的に鉄線鍍装硬質ポリエチレン管になりました。

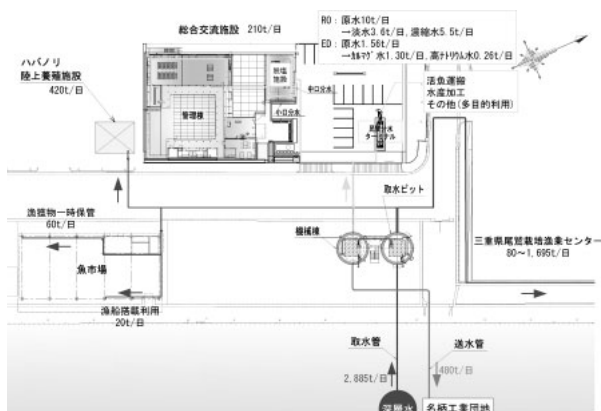
脱塩・分水施設は、2種類の脱塩装置を設置し、各地で呼称は違っていますが、逆浸透膜法による淡水と濃縮水、電気

透析法によるカルマグ水と高ナトリウム水、これらと原水合わせて5種類の海洋深層水を産業利用や一般家庭利用に分水しています。また、活魚運搬車などの車両供給用として原水の大口分水施設も整備してあります。



一方、利活用については水産利用として日量2,885m³の取水量のうち2,285m³を前述の三重県尾鷲栽培漁業センターでメガイアワビの飼育、アワビの初期餌料培養、ナンクロロプシスの培養、マダイ・カサゴの親魚養成及び海面養殖用マハタの種苗生産に、地元漁業関係でハバノリ陸上養殖、漁船搭載、漁獲物一時保管、活魚運搬及び水産加工に利用することになっています。また、その他産業利用として、日量600m³を確保しました。これは海洋深層水事業の先進各地がそうであるように、水産業以外の産業でも利活用し、水産利用とその他産業利用によって地域の活性化を図るためのものですが、平成14年度から17年度までの4年間は、船舶で簡易的に海洋深層水を取水して、商品開発や研究を行う民間事業所等に分水を実施してきており、すでに商品化を行った民間事業所や海洋深層水活用型工業団地に海洋深層水を利用した飲料水の製造工場を立地した企業も現れてきています。

しかしながら、本市の海洋深層水事業はまだ緒に就いたばかりです。今後は大学や研究機関との連携のもと、利用技術の開発はもとより、海洋深層水と熊野古道と組み合わせるなどした尾鷲市独自の利活用方法を利用者側に提案し、みえ尾鷲海洋深層水のブランド化を進めていきたいと考えており、こうしたことが新しい産業の創造につながるものと思っています。また、全国の海洋深層水事業を展開している自治体とも協調して、海洋深層水の需要拡大や存在価値を高めていきたいと考えています。



■ ニュースレターの論文誌への併合について

ニュースレターの論文誌への併合にあたって 藤田 大介（編集委員長）

海洋深層水利用研究会が学会に移行するのに伴い、このたび9巻2号をもって単独誌としてのニュースレターを廃し、これまで本誌で取り扱ってきた記事内容を論文誌の巻末やホームページに移行することになりました。

ニュースレターは、会員相互の情報交換の場として長らく研究会の「顔」であり、会務報告のほか、特集、トピックス、情報コーナー、お知らせ、用語解説、団体会員紹介など、盛り沢山の記事が掲載されてきました。論文誌よりも歴史が古く、当初は研究報告も掲載されていました。

私は平成17年度から第3代目の編集委員長を仰せつかりましたが、私の任期には当初から研究会の組織や体制の見直しが出ておりました。とりあえず、切りのよいところとして10巻までは発刊を続けようと考え、一時は幹事会でも了承されておりました。この間、体制の検討も行き、平成17年4月には総会で参加者にアンケートも実施しました。しかし、その結果、これまでのニュースレターに対して一定の評価をいただい

たものの、ホームページの整備・充実を受けて、紙面の役割は終わったとのご意見も多数いただきました。さらに、今春から研究会が学会に移行することが今年の総会で決定したこともあり、予定よりも1年早く、9巻、9年間の歴史に幕をおろすことになりました。

単独誌としてニュースレターはなくなりますが、会員へのニュース伝達は会則にも定められた事項であり、今後はホームページに迅速に掲載されるとともに、論文誌の巻末に装いを新たにして収録され、学会活動の一環として継続されることとなります。会員の皆様におかれましては、学会誌の中のニュースレター編を論文編とともにご活用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以下に、歴代編集委員長のお言葉をいただき、これまで編集に尽力されてこられた編集委員のお名前を挙げさせていただきます。長い間、ご苦勞様でした。

歴代編集委員長のひとこと

高橋 正征（初代編集委員長、1997～1999）

手元のニュースレターを見ると、第1巻第1号は1997年7月30日に発行されています。表裏表紙を入れて16頁で、重量感のある立派な印刷に仕上がっています。その後は、6月または7月と12月の年2回発行し、私が編集委員長を担当した1999年の第3巻第2号まで全6号総頁数は92頁になりました。当時、ニュースレターは海洋深層水に関する国内外での組織的な唯一の情報伝達媒体で、関係者皆が何度も目を通すほど、重要な存在感がありました。ただ、2000年7月に論文誌「海洋深層水研究」が発刊され、論文・総説・解説などの情

報は、ニュースレターから論文誌に移っていき、さらに最近ではインターネットによる情報配信が社会に浸透し、発行や配信に費用のかかる印刷媒体を使ったニュースレターの必要性が往時ほどではなくなりました。今後、ニュースレターの内容は論文誌とネット配信に切り替わりますが、海洋深層水に関するニュース情報配信の精神は、印刷媒体で始まったニュースレターに基礎をおいていることは間違いありません。さらに、第9巻第2号までのニュースレターの果たした貢献は極めて大きく、その編集委員長を経験したことを心から誇りに思います。

歴代編集委員長のひとこと

深見 公雄（第2代編集委員長、2000～2003）

私は、初代編集委員長の高橋正征先生の後を引き継いで、平成12年度から同16年度まで第2代目の編集委員長を仰せつかりました。その間の苦勞話といえば、なんといってもニュースレターに掲載する記事を執筆していただける方を毎回さがすのに苦勞したことです。次号のニュースレターの内容を検討する際、当然、執筆者の顔のある程度、頭の中にうかべながら企画を立てていきます。しかしながら、企画がある程度固まって、その記事の執筆をお願いしても、しばしば多忙を理由に断られたり、民間企業や行政の方に執筆をお願いしても、「私なんかにはご希望に添える原稿なんか書けそうにありません」と断られたりすることが多く、いつも原稿を集める期限ギリギリまで苦勞したことを思い出します。それと編集委員は

皆さん多忙な方ばかりであり、編集作業がついつい遅れがちになりました。このため私の任期の最後の方では、6月と12月に発行予定のニュースレターの印刷できあがり1～2ヶ月ずれ込んでしまったことも何度ありました。読者の方にはご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、それでも何とか5年間まがりなりにもニュースレターを発行し続けられたのは、私以外の編集委員の方々の献身的な働きによるものであり、この場をお借りして、厚く御礼申し上げたいと思います。海洋深層水利用研究会も学会となり、ニュースレターも今後は電子媒体となるようですが、海洋深層水学会および会員の交流の場としてのニュースレターがますます発展していくことを祈念して、ご挨拶としたいと思います。

■ 歴代編集委員 川北浩久、黒山順二、早乙女浩一、進藤 秀、高橋正征、田村光政、豊田孝義、野上欣也、
(五十音順) 深見公雄、藤田大介、堀 哲郎、松林恒夫、宮野春雄、森野仁夫、安川岳志、山岡到保

海洋深層水利用研究会ニュース 総目次

第1巻、第1号、1997年

会長挨拶

一学術的研究交流のメッセージボードに期待する ……2

海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次

研究会の設立によせて ……3～4

■海洋深層水利用研究会への期待

科学技術庁研究開発局 海洋地球課長 丸山 剛司

■海洋深層水利用研究会に期待する

水産庁振興部 開発課長 上之門 量三

■海洋深層水利用研究会の設立によせて

IOA名誉会長 李 慶遠(Dr. C. Y. LI)

研究会の概要 ……5～9

設立趣意書 設立発起人一覧

海洋深層水利用研究会会則

事業計画と予算

役員、委員会委員および事務局

特集「高知県における海洋深層水研究」 ……10～12

高知県海洋深層水研究所 所長 谷口 道子

情報コーナー ……13～14

■富山県における深層水利用研究の取り組み

富山県水産試験場 次長 奈倉 昇

■静岡県における深層水利用研究の取り組み

静岡県水産試験場 漁業開発部長 河尻 正博

■沖縄県での海洋深層水事業の取り組み状況

沖縄県 企画開発部 主任技師 富永 千尋

IOA'97シンポジウムの報告

お知らせ ……15

編集後記 ……16

第1巻、第2号、1997年

特集「富山県における海洋深層水利用研究」 ……2～4

富山県水産試験場 次長 奈倉 昇

研究報告「海洋深層水を利用した高付加価値製品(色素)

の製造に関する研究」 ……5～8

工業技術院 中国工業技術研究所 山岡 到保

情報コーナー ……9

■高知県における深層水利用研究の取り組み

高知県海洋局海洋深層水対策室 主幹 宮本 猛

■室戸市での海洋深層水事業への取り組み

室戸市企画商工観光課 課長 浜口 太作

団体会員の紹介 ……10

■日本水産株式会社中央研究所

水産研究室 井上 広滋

■日本郵船株式会社一郵船と深層水一

(株)NYK輸送技術研究所 藤田 恒美

会員からのお便り ……11

■四国環境・バイオサロンでの深層水講演会について

高知大学農学部 深見 公雄

■高知県における海洋深層水の食品利用の現状

高知県工業技術センター 久武 陸夫

お知らせ ……12

海洋深層水'97-富山シンポジウムの報告

幹事会報告

編集後記 ……12

第2巻、第1号、1998年

会長挨拶-第2年度のスタートにあたって

(海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次) ……2

1998年度の事業概要 ……3～5

役員、委員会委員および事務局

事業計画と予算

海洋深層水利用研究会会則(一部改正)

特集「科学技術振興調整費による深層水研究の実施」

(宇宙開発事業団 松浦 勉) ……6～8

研究報告「海洋深層水の特性を利用した餌料性珪藻の培

養およびそれを用いたアワビ種苗の生産」 ……9～12

高知大学農学部 水族環境学研究室 深見 公雄

情報コーナー ……13～14

■北海道における深層水利用可能性調査の取り組み

北海道総合企画部科学技術振興課 主査 福見 良明

■海洋深層水で町の活性化をめざす熊石町

熊石町企画課 課長 松田 紀嗣

■羅臼町での深層水と地域振興への取り組み

羅臼町水産観光振興室 水産農林参事 佐々木 征博

団体会員の紹介 ……14

クロレラ工業株式会社 開発部 丸山 功

お知らせ ……15

幹事会報告

総会報告

研究発表会のお知らせ

会員からのお便り ……15

海洋深層水マリンゴールド

有限会社浅川自然食品工業 代表取締役 浅川 良住

Staff Voice ……16

第2巻、第2号、1998年

特集「海洋深層水の利用 一実用化に向けて」……2～4
 海洋科学技術センター 中島 敏光

研究報告「海洋深層水飼育による養殖魚の品質改善」 5～8
 日本水産株式会社中央研究所 井上 広滋
 高知大学農学部 森岡 克司

情報コーナー ……8～9
 ■三重県の深層水と地域振興への取り組み
 三重県地域振興部地域振興課 主査 安藤 和紀
 ■滑川市における海洋深層水施設
 滑川市産業民生部商工水産課 主幹 坪川 宗嗣

団体会員の紹介 ……10
 清水建設(株)
 エンジニアリング本部海洋開発 エンジニアリング部 部長 辰巳 勲
 (株)関西総合環境センター 技術開発部 課長 池田 知司

お知らせ ……11
 シンポジウム・研究発表会報告
 幹事会報告

会員からのお便り ……12
 海洋深層水利用研究化粧品について
 株式会社シュウ ウェムラ化粧品 研究室部長 新井 陽一郎

Staff Voice ……12

第3巻、第1号、1999年

特集「海洋深層水利用研究に関連する国の研究プロジェクト」…2～4
 I. 駿河湾海洋深層水利用研究プロジェクトについて
 科学技術庁研究開発局海洋地球課 藤田 健一
 II. 海洋深層水供給施設の整備について
 水産庁漁港部計画課 堀越 伸幸
 III. 海洋深層水の利活用による21世紀ビジネスの創出に向けて
 通商産業省資源エネルギー庁 総務課 福島 伸一郎

1999年度の事業概要 ……5～6
 役員、委員会委員および事務局
 事業計画と予算

研究報告(1)
 「室戸岬海洋深層水についての研究・利用を振り返って」 7～10
 高知県海洋深層水研究所 谷口 道子

研究報告(2)
 「深層水利用による深海性バイ類の飼育研究」 ……11～14
 富山県水産試験場 瀬戸 陽一

用語解説 ……14
 第1回 海洋深層水
 東京大学大学院 総合文化研究科 高橋 正征

深層水利用促進委員会からのメッセージ ……15～16
 深層水利用に関するアンケート調査結果報告
 水産庁中央研究所 松里 寿彦

情報コーナー ……16～17

■静岡県の深層水事業への取り組み状況
 静岡県農林水産部水産振興室 後藤 裕康

■「海ヤカラ1号」と魚の鮮度保持試験
 沖縄県海洋深層水利用推進協議会 鈴木 俊行

団体会員の紹介 ……18
 古河電気工業株式会社 地中線部海洋課 山口 卓見
 古河産業株式会社 電線部海洋グループ 福永 英昭
 (株)水土舎 常務取締役 近 磯晴

お知らせ ……19
 幹事会報告・定期総会報告
 研究発表会のお知らせ

製品紹介 ……20
 海洋深層水豆腐
 (株)タナカショク 田中 康宏

Staff Voice ……20

第3巻、第2号、1999年

特集「海洋深層水に関する特許の現状と課題」 ……2～4
 清水建設(株)技術研究所 森野 仁夫

研究報告(1)
 「富山県における深層水利用研究技術開発」 ……5～8
 富山県水産試験場 中村 弘二

研究報告(2)
 「洋上型海洋深層水取水システムの検討」 ……9～12
 大阪府立大学工学部 大塚 耕司
 板東 晃功

用語解説 ……12
 第2回 自然湧昇と人工湧昇
 (株)NYK輸送技術研究所 藤田 恒美

情報コーナー ……13
 ■富山県入善町の深層水利用計画
 富山県入善町役場特定政策推進室 鍋谷 良和
 ■駿河湾深層水の有効利用
 静岡県水産試験場漁業開発部 幡谷 雅之

団体会員の紹介 ……14
 株式会社東京久栄 営業統括部建設営業部 古内 修
 東洋紡績株式会社 エンジニアリング事業部 丸谷 充

お知らせ ……15
 幹事会報告
 海洋深層水利用研究会論文誌の発行について
 情報交換会・深層水Nov.'99の報告
 第3回研究発表会報告
 酒匂敏次会長、Compass International Awardを受賞される

会員からのお便り ……16
 「海洋深層水は簡単に取水できる」
 富山県水産試験場栽培・深層水課 藤田 大介

Staff Voice ……16

第4巻、第1号、2000年

会長挨拶—第4年度をむかえて ……………2
 海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次

2000年度の事業概要 ……………3～5
 役員、委員会委員および事務局
 事業計画と予算
 海洋深層水利用研究会会則(一部改正)

特集 沖縄県における海洋深層水の利用研究 ……………6～8
 沖縄県海洋深層水研究所 当真 武

トピックス(1) 深層水による洋上肥沃化構想 ……………9～10
 水産庁瀬戸内海区水産研究所 井関 和夫

トピックス(2) 海洋深層水の研究拠点「深層水分析研究棟」 11～12
 海洋科学技術センター 黒山 順二

情報コーナー ……………12
 小笠原諸島父島における深層水利用計画
 東京都小笠原村企画財政課 森田 裕一

研究紹介 ……………13～15
 米日における洋上海洋牧場構想の進捗状況
 東京大学大学院総合文化研究科 高橋 正征

用語解説 ……………16
 第3回 有機物の生産と分解
 高知大学農学部 深見 公雄
 第4回 真光層(euphotic layer)と
 補償深度(compensation depth)
 深見 公雄、高橋 正征

情報交換会・深層水Navi-2の報告 ……………17
 (株)NYK輸送技術研究所 藤田 恒美

団体会員の紹介 ……………18
 赤穂化成株式会社 技術開発部 中川 光司
 財団法人電力中央研究所 環境科学部 水鳥 雅文

お知らせ ……………19～20
 幹事会報告、総会報告
 研究発表会のお知らせ
 情報交換会のお知らせ
 「海洋深層水研究」への論文投稿について
 出版物の紹介

Staff Voice ……………20

第4巻、第2号、2000年

特集 ハワイ自然エネルギー研究機構(NELHA)の概要 ……2
 東京大学大学院総合文化研究科 高橋 正征

トピックス(1)
 室戸市における海洋深層水の利用状況について ……6～7
 室戸市海洋深層水推進課 仙頭 喜一郎

トピックス(2)
 鋼管による海洋深層水取水の可能性 ……………8～9
 (株)東京久栄 足達 康行

情報コーナー(1)
 取水施設整備状況について ……………9～10
 静岡県農林水産部水産振興室 青木 一永

情報コーナー(2)
 富山県で国際機能水バイオシンポジウムを開催 ……………11
 富山県水産試験場 栽培・深層水課 藤田 大介

情報コーナー(3)
 平成12年度第2回産官学技術移転交流会
 「海洋深層水の可能性を探る」 ……………11
 高知大学農学部 深見 公雄

用語解説 ……………12
 第5回 海洋温度差発電
 佐賀大学理工学部 池上 康之
 第6回 脱塩・製塩技術
 (株)赤穂化成 中島 宏

情報交換会・深層水Navi-3(札幌)の報告 ……………13
 海洋科学技術センター 筒井 浩之

第4回海洋深層水利用研究会の報告 ……………13
 (株)KANSO 池田 知司

幹事会報告 ……………13
 2000年度第2回幹事会報告
 2000年度第3回幹事会報告

団体会員の紹介 ……………14
 大成建設(株) 尾高 義夫
 五洲薬品(株) 佐伯 行紀

論文誌「海洋深層水研究」投稿規程 ……………15

お知らせ ……………16
 海洋深層水に関連した海水の科学シンポジウム
 新刊案内

Staff Voice ……………16

第5巻、第1号、2001年

会長挨拶—21世紀の開幕と海洋深層水利用研究会 ……2
 海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次

2001年度の事業概要 ……………3～4
 役員、委員会委員および事務局
 事業計画と予算

特集「海洋深層水と健康」 ……………5～11
 (1) 食品と海洋深層水
 食品総合研究所 鈴木 平光、伊藤 美保
 (2) 室戸海洋深層水の炎症性細胞への影響
 ～免疫応答の基礎から考える～
 高知医科大学生物学教室 富永 明、渡部 嘉哉
 (3) 海洋深層水をベースとした健康飲料
 赤穂化成(株) 技術開発部 太井 秀行、中川 光司、中島 宏

トピックス(1)
 海洋科学技術センターにおける新たな海洋深層水利用研究構想 ……12～15

海洋科学技術センター 海洋深層水研究プロジェクトチーム トピックス(2)	(2)局地性湧昇と海洋深層水利用技術 海洋科学技術センター 中島 敏光
インド洋における海洋温度差発電実証プロジェクト	(3)小笠原諸島における海洋深層水利用計画 東京都小笠原村 企画財政課 石原 洋介
佐賀大学理工学部附属海洋温度差エネルギー実験施設 池上 康之	(4)八丈島の産業振興～深層水を核に～ 八丈島海洋深層水研究会 菊池 政裕
会員からの便り「海洋深層水データの公表促進と分析項目・表示法等の共通化を」……………15	(5)Navi-5 総合討論 深層水利用促進委員会 松里 壽彦
社団法人海洋産業研究会 中原 裕幸	情報コーナー……………13
情報コーナー……………16	新潟県佐渡島における海洋深層水利用事業の動き 新潟県佐渡郡畑野町 企画商工課 計良 隆弘
■北海道羅臼町における海洋深層水利用計画について 北海道羅臼町海洋深層水推進プロジェクト 佐々木 柁博	研究発表会報告……………13
■北海道熊石町の海洋深層水にかける夢 北海道熊石町企画課海洋深層水推進室 田畑 秀哉	第5回海洋深層水利用研究会全国大会の報告 研究発表企画委員会 辰巳 勲
用語解説……………17	用語解説……………14～15
■磯焼け 富山県水産試験場 栽培・深層水課 藤田 大介	■栄養塩類 広島大学 長沼 毅
■日本海固有水 九州大学応用力学研究所 尹 宗煥	■北太平洋中層水 海洋科学技術センター 深澤 理郎
団体会員の紹介……………18	団体会員の紹介……………15
株式会社テトラ 環境事業本部 綿貫 啓 (社)日本栽培漁業協会 企画課 野上 欣也	富山化学工業株式会社 事業開発室 中川 陽一 東レ株式会社 水処理システム事業部 岩崎 宗城
お知らせ……………19～20	お知らせ……………16
幹事会・総会報告 情報交換会「深層水Navi-4」の報告 深層水利用促進委員会 宮近 秀人 研究発表会のお知らせ 新刊案内 ニュースレターの編集方針(論文誌との役割分担)	幹事会報告 Staff Voice……………16
Staff Voice……………20	第6巻、第1号、2002年
第5巻、第2号、2001年	会長挨拶……………2 海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次
特集「海洋深層水が環境に与える影響」(第1部)……………2～7	2002年度の事業概要……………3～4 役員、委員会委員および事務局 事業計画と予算
(1)深層水の放流 (株)関西総合環境センター 池田 知司	特集「海洋深層水が環境に与える影響・第2部」……………5～10
(2)磯焼け～海洋深層水への期待～ 富山県水産試験場 栽培深層水課 藤田 大介	(1)「海洋深層水」汲み上げと二酸化炭素 産業技術総合研究所 原田 晃
会員からの便り……………7	(2)海洋深層水のエネルギー量 筑波大学名誉教授 高野 健三
但馬沖深層水利用に関する取組みについて 但馬沖深層水利用研究協議会 下村 嘉平衛	トピックス……………11～14
トピックス……………8～10	(1)人工湧昇流漁場へのチャレンジ (社)マリノフォーラム21事務局 畔田 正格
(1)民間主導で初の取水施設 三浦ディーエスダブリュ(株) 松尾 茂之	(2)クルマエビ・母エビ養成に成功 沖縄県海洋深層水研究所 玉城 英信
(2)駿河湾深層水の取水及び試験給水を開始 静岡県農林水産部水産振興室 高 瀬 進	会員からの便り……………14
深層水情報交換会「Navi-5」報告……………11～12	北海道における海洋深層水利用の研究 北海道立地質研究所海洋地学部 嵯峨山 積
(1)伊豆諸島周辺の海洋構造について 中央水産研究所 海洋生産部 友定 彰	情報コーナー……………15
	韓国における海洋深層水利用の動向

海洋科学技術センター 富松 亮介

用語解説16

■黒潮と親潮
三重大学 関根 義彦

■海藻と海草
富山県水産試験場 藤田 大介
瀬戸内海区水産研究所 寺脇 利信

団体会員の紹介17
三菱重工業(株)横浜製作所 鉄構技術部 宮坂 政司
(株)タナカシヨク 代表取締役社長 田中 幸彦

情報交換会報告18
深層水Navi-6 報告
深層水利用促進委員会 藤田 恒美

お知らせ18~20
幹事会・総会報告
学術団体として認可
研究発表会のお知らせ

新刊の紹介20

Staff Voice20

第6巻、第2号、2002年

特集「海洋深層水汲み上げの権利と義務について」...2~7

(1) 海洋深層水利用の権利と義務
独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所 松里 壽彦

(2) 海洋深層水利用メリットの科学的根拠に関する問題
東京大学大学院総合文化研究科 高橋 正征

(3) 室戸海洋深層水を用いた商品づくり
高知県海洋局海洋深層水対策室 池田 敏宏

トピックス8~12

(1) 入善海洋深層水活用施設が完成 分水を開始
富山県入善町役場海洋深層水課 鍋谷 良和

(2) 海洋深層水共同研究センター
(室戸市での産学官共同研究施設の整備)
高知県海洋深層水研究所 田島 健司

情報コーナー13~14
飲用海洋深層水の表示について
富山県農林水産部 藤田 大介

情報交換会報告14~15
深層水Navi-7 報告
深層水利用促進委員会 松里 壽彦

新刊案内15

会員からの便り16
室戸海洋深層水フェスタ開催される
(株)浅川自然食品工業 浅川 良住

研究発表会報告17
第6回海洋深層水利用研究会全国大会の報告
研究発表企画委員会 辰巳 勲

用語解説18

■微細藻類
クロレラ工業(株) 丸山 功

■ミネラルウォーター
赤穂化成(株) 中山 朝雄

団体会員紹介19
芙蓉海洋開発株式会社
芙蓉海洋開発(株) 金巻 精一
久米島海洋深層水開発株式会社
久米島海洋深層水開発(株) 安里 一月

お知らせ20
2002年度 第2回幹事会
2002年度 第3回幹事会

Staff Voice20

第7巻、第1号、2003年

会長挨拶2
海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次

2003年度の事業概要3~6
役員、委員会委員および事務局
2002年度 事業・収支報告
2003年度 事業計画と予算

特集「海洋深層水の農業への有効利用-1」.....7~11

(1) 沖縄県海洋深層水研究所の取組
沖縄県海洋深層水研究所 兼島 盛吉

(2) 「冷熱の水耕栽培への利用」
高知大学農学部 松岡 孝尚・北野 雅治・石川 勝美

トピックス.....12~14

(1) 公開シンポジウム
「高知の誇る資源 海洋深層水-科学的特性把握ならびに新たな有効利用法の探索とその問題点の解明-」
高知大学農学部 深見 公雄

(2) 甌島からのチャレンジ
下甌村役場経済課 瀧津 俊二

情報コーナー15~16
21世紀の焼津市の地域資源、駿河湾深層水
焼津市経済部深層水課 土屋 直一

会員からの便り16
「海洋深層水産業利用全国自治体協議会」4県会議から
5県会議へ
沖縄県企画開発部科学・学術振興室 宮城 弘

用語解説17

■海洋深層水氷
富山県工業技術センター 九曜 英雄

■タラソセラピー
日本海洋療法研究会 村瀬 暁

団体会員の紹介18~19

(株)日本エコエネルギー研究所 エコエネルギー技術部 西田 佳弘
 (財)環境地質科学研究所 貴船 育英
お知らせ19
 幹事会・総会報告
 深層水情報交換会「深層水Navi-9」について
 第7回 海洋深層水利用研究会全国大会
情報交換会報告20
 深層水Navi-8 報告
 深層水利用促進委員会 富松 亮介
Staff Voice20

第7巻、第2号、2003年

特集「海洋深層水の農業への有効利用-2」2~5
 (1)トマト生産への利用のための生理学的検証
 高知大学農学部 北野 雅治、石川 勝美、松岡 孝尚
 高知大学大学院農学研究科 和島 孝浩
 (2)海洋深層水を利用したエノキダケ栽培
 横田きのこ有限公司 横田 慎二
 高知県立森林技術センター 今西 隆男、深田 英久
トピックス6~11
 (1)高知県工業技術センターでの海洋深層水研究の取り組み
 高知県工業技術センター 加藤 麗奈、北村 有里、浜田 和秀
 (2)佐賀大学海洋エネルギー研究センターの紹介
 佐賀大学海洋エネルギー研究センター 池上 康之
 (3)静岡県における海洋深層水研究施設の完成
 静岡県水産試験場 五十嵐 保正
情報交換会報告12~13
 深層水Navi-9 報告
 深層水利用促進委員会 藤田 恒美
情報コーナー14
 第7回海洋深層水利用研究会全国大会の報告
 研究発表企画委員会 辰巳 勲
会員からの便り15~16
 熊石海洋深層水取水施設完成
 北海道熊石町海洋深層水課 田畑 秀哉
用語解説17
 ■にがり
 赤穂化成株式会社 安川 岳志
 ■海洋深層水と冷房
 清水建設(株)技術研究所 森野 仁夫
団体会員の紹介18
 社団法人 海洋産業研究会 大貫 麻子
 株式会社 エコニクス 筒井 浩之
お知らせ19~20
 2003年度 第2回幹事会報告
 2003年度 第3回幹事会報告
Staff Voice20

第8巻、第1号、2004年

会長挨拶2
 海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次
2004年度定期総会報告3~6
 2003年度事業・収支報告
 2004年度事業計画と予算
 幹事選挙結果および役員・委員長・事務局長の選任
特集「エネルギー使用合理化海洋資源活用システム開発」 7~13
 (財)電力中央研究所 角湯 正剛
 新日本製鐵(株) 木村 春男
 清水建設(株) 清水 勝公
 (株)関西総合環境センター 池田 知司
 清水建設(株) 森野 仁夫
トピックス13~16
 (1)マダラ親魚の深層水施設による早期採卵と種苗生産に成功
 富山県水産試験場 堀田 和夫
 能登島栽培漁業センター 荒井 大介、渡辺 研一
 (2)佐渡海洋深層水利用施設完成
 佐渡市役所 企画情報課 海洋深層水対策室 熊谷 圭一
情報交換会報告16
 深層水Navi-10 報告
 深層水利用促進委員会 宮近 秀人
情報コーナー17
 「ホームページ」がオープンしました
 ホームページ担当幹事 尾高 義夫
用語解説18
 ■温排水
 (株)関西総合環境センター 池田 知司
 ■生物連行
 (株)東京久栄 高月 邦夫
団体会員の紹介19
 株式会社 本間組 上田 修
 社団法人 マリノフォーラム21 畔田 正格
お知らせ20
 2003年度最終および2004年度第1回幹事会報告
 2004年度定期総会報告
 第8回海洋深層水利用研究会全国大会
Staff Voice20

第8巻、第2号、2004年
特集「高知県 海洋深層水研究所、沖縄県 海洋深層水研究所、富山県水産試験場の水産への取り組み」2~7
 (1)高知県における水産への取り組み
 高知県海洋深層水研究所 森山 貴光
 (2)沖縄県 海洋深層水研究所における水産分野への
 取り組み
 沖縄県海洋深層水研究所 平手 康市

(3) 富山県水産試験場における海洋深層水を利用した 研究の紹介 富山県水産試験場 宮崎 統五	入善町商工水産・深層水課 井田 信也
トピックス ……………8～12	(3) 海洋深層水に関する特許について 社団法人海洋産業研究会 大貫 麻子
(1) 石川県内浦町の海洋深層水取水施設の完成 石川県内浦町役場 谷内田 賢治 大成建設株式会社 小林 光雄、山中 新	情報コーナー ……………16～17
(2) ノルウェーのボードー地域大学における海洋深層水の 取水施設の紹介 東京海洋大学 藤田 大介	■ 海外の取水施設の取り組み(台湾) 高知大学大学院 高橋 正征
(3) 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科の内容とそ れが目指すもの 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科 深見 公雄	■ 海洋肥沃化装置「拓海」の実験について 株式会社大内海洋コンサルタント 大内 一之
情報コーナー ……………13	用語解説 ……………18
(1) 第8回海洋深層水利用研究会全国大会の報告 研究発表企画委員会 清水 勝公	■ 機能性食品 クロレラ工業株式会社 丸山 功
(2) ホームページ編集委員会からのご報告 ホームページ編集委員会 尾高 義夫	■ トクホ クロレラ工業株式会社 松林 恒夫
用語解説 ……………14	団体会員の紹介 ……………19
■ 栽培漁業 (独)水産総合研究センター古満目栽培漁業センター 堀田 卓朝	五洋建設株式会社 清水 英久 焼津水産化学工業株式会社 又平 芳春
団体会員の紹介 ……………15	お知らせ ……………20
鹿島建設株式会社 土木管理本部土木技術部 植田 政明 ニュー百楽荘 萩原 俊彦	2005年度第1回幹事会報告 2005年度定期総会報告 第9回海洋深層水利用研究会全国大会
お知らせ ……………16	Staff Voice ……………20
2004年度第2回および第3回幹事会報告 ニューズレターバックナンバーの配布	
Staff Voice ……………16	
第9巻、第1号、2005年	
会長挨拶 ……………2	
海洋深層水利用研究会 会長 酒匂 敏次	
2005年度定期総会報告 ……………3～5	
2005年度役員の紹介 2004年度事業報告 2004年度収支報告 2005年度事業計画と予算	
特集「タラソテラピー施設紹介」 …………6～11	
(1) 海洋深層水温浴施設「バーデハウス久米島」の紹介 久米島町商工観光課 平良 朝幸	
(2) 焼津市駿河湾深層水体験施設(タラソ関連施設) 整備に関する焼津市の取り組み 焼津市経済部深層水課	
トピックス …………12～15	
(1) 深層水取水技術ワークショップの報告 大阪府立大学大学院 大塚 耕司	
(2) 第4回を迎えた入善海洋深層水ふれあいデー	

第9回海洋深層水利用研究会全国大会（海洋深層水2005室戸大会）

研究発表企画委員長 清水勝公

第9回海洋深層水利用研究会全国大会（海洋深層水2005室戸大会）が2005年11月10日・11日に、高知県室戸市保健福祉センターやすらぎ「夢ひろば」にて開催されました。今年には台風の影響も無く両日ともに天候に恵まれ、北海道から沖縄まで日本全国から、更に台湾、韓国からも多数ご参加いただき、総数180名での盛会となりました。

酒匂会長の開会の辞の後、高橋実行委員長の挨拶、中谷衆議院議員の祝辞に続き、共催をいただいた高知県中西副知事、武井室戸市長からもお言葉を頂きました。

一般講演は、2日間で38編の研究発表がありました。分野別には、海洋・水質5編、生物5編、水産5編、計画・建設8編、システム解析・エネルギー5編、健康7編、調査3編と多岐にわたり大変興味深いものでした。

室戸市は、深層水の利活用分野においては日本では先導的地位にあり、多くの深層水関連製品を産出し、水産・農業利用も行われています。展示場では室戸市のご協力ですれら深層水関連の品々が多数展示され一般市民へも公開されました。また、2日目午後には深層水関連施設の見学会を開催いたしましたところ、大型バス3台が満員になるほどの参加者がありました。



今回の全国大会は、今後の深層水事業の更なる展開において貴重な情報交換と交流の場であったと思われまます。本大会の運営は、実行委員の皆さんや快く座長をお引き受けいただいた皆様方のボランティアによりなされ、会場では室戸市の職員の方々、高知大学の皆様、また高知県の皆様にも献身的なご援助を頂き成功することが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



お知らせ

■ 海洋深層水利用研究会2005年度第2回幹事会報告(事務局)

2005年11月10日(木)12:10~13:00、室戸市保健福祉センターやすらぎ第3会議室において、幹事数名により開催された。

- ・事務局体制に不安定な面があるが、次年度の学会発足に伴い、高知大学に3年間お願いをすることを本幹事会の決定事項とする。
- ・次回全国大会は尾鷲市より開催の要望が寄せられており、研究発表委員会の意向も考慮して仮決定としたい。
- ・ニュースレターの継続に関してはHP・論文誌に一本化の方向で検討し、委員会の処遇と併せて検討する。ニュースレターの発行は会則で規定されており、必ずしも印刷物である必要はないが発行は必要で、ニュースレター委員会をなくすことは可能であるが、担当幹事は必要である。HP編集委員会としては、ニュースレター編集委員会にニュースレターコーナーの担当を希望する。
- ・HP編集委員会では、新規入会申込みは会員専用ページで会員登録内容の変更が出来るよう作業中。英文ページについては学会移行にあわせて実施を予定。全国大会の参加申込みも、セキュリティに留意し、HP上で行えるようにしたい。
- ・入退会が承認され、11月10日現在、個人会員223名、団体会員91団体となった。

■ 海洋深層水利用研究会2005年度第3回幹事会報告(事務局)

2006年2月17日(金)14:00~17:00、日本財団第8会議室において、幹事8名により開催された。

- ・HP編集委員会から、2005年4月1日からサーバの容量を50MBから500MBへアップし、2006年度は800MBにアップする予定であることなどが報告された。

- ・2006年度の全国大会開催地は尾鷲市とすることが了承された。
- ・ニュースレターは、「地域や他研究会の話題提供」、「取水地や消費地の話題提供」、「会員からの便り」、「用語解説等」とし、ニュースレター編集委員会でページを作成した上でHP上に掲載し、紙媒体での配信は停止する。
- ・論文誌の刊行計画は年に2回の予定であったが、投稿数が少なく年1回の発行となった。
- ・定期総会は学会発足初年度の総会になるので、松里幹事を責任者とする準備事務局を発足させ、準備することとする。
- ・学会移行に伴い、会の英文表記をDeep Ocean Water Applications Society 略称 DOWAS(どわす)とする。知的財産の関係で、名称登録および特許法第30条の規定に基づく学術団体の指定のための登録を行う方向で、事務局で準備する。
- ・2006年度の幹事の選挙について議論し、幹事は2005年度と同様の12名とすること、委員長1名および委員2名で構成する選挙管理委員会を発足させること、委員長は(株)間組顧問の下村嘉平衛氏にお願いすること、選挙の方法と実施時期は選挙管理委員会に一任することでも了承された。
- ・4月より事務局を高知大学にお願いする。新事務局長は深見幹事にお願いする。
- ・入退会者が承認され、2月13日現在、個人会員215名、団体会員81団体となった。
- ・2005年度収支予想と2006年度予算案が承認された。
- ・学会への移行に伴い、「幹事会」を「理事会」とする。会則改正を行い、4月の総会の議案とする。「理事会の推薦によって幹事より事務局長を推薦する」ことを会則に追加する。細かい表現等についてはこれからつめ、4月の総会の議案とする。

Staff Voice

■ 入退会の状況(2005年3月31日~2006年5月17日)

入会者(個人会員): 衛藤英男、池田勉、二村和視、大屋英樹、竹内純、野本公夫、林信行、森田公、出間精一郎、楠田理一、田中幸彦、谷本光生、寺島克之、長門充、野田宏行、浜渦清、板東晃功、松崎達也、横山彰、渡辺豊徳。

入会者(団体会員): 関海事工業所。

退会者(個人会員): 島渕裕一、黒山順二。

退会者(団体会員): (株)テトラ、糸西海洋深層水利用研究会、(株)NCIMB、大坂建設(株)、(株)大林組、(財)環境地質科学研究所、九州商事(株)、久米島町役場、JEFエンジニアリング(株)、(株)東京久栄、(株)長門建設、焼津水産化学工業(株)。

■ 編集後記

最後のニュースレターを何とか刊行することができました。今後はホームページと論文誌巻末(7巻2号以降)をご覧ください。

なお、本誌の奥付にはなぜか印刷所が示されておりましたが、創刊号以来、(株)インプレッション(〒150-0034 東京都渋谷区代官山町8-11 MOIビル3F TEL:03-5489-7066)にお願いしておりました。長い間有難うございました(D.F.)。

■ 編集委員会

委員長	藤田 大介	東京海洋大学
委員	川北 浩久	高知県海洋深層水研究所
(50音順)	進藤 秀	(株)キタック
	野上 欣也	(独)水産総合研究センター
	深見 公雄	高知大学大学院
	堀 哲郎	清水建設(株)
	松林 恒夫	クロレ工業(株)
	安川 岳志	赤穂化成(株)

■ 発行

海洋深層水利用研究会ニュース	第9巻、第2号、2005年
発行日	: 2005年12月31日
発行所	: 海洋深層水利用研究会
編集	: ニュースレター編集委員会
研究会事務局	: 〒220-6115
	神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3
	クイーンズタワーB 15F
	(独)水産総合研究センター 中央水産研究所